

## 第3期奈良県食育推進計画 県の取組状況

- ・基本方針1 健康づくりを推進するための食育  
健康推進課
- ・基本方針2 次世代の健全な食習慣形成のための食育  
奈良っ子はぐくみ課 ・ 保健体育課 ・ 健康推進課
- ・基本方針3 奈良県の食の魅力向上のための食育  
豊かな食と農の振興課
- ・基本方針4 食を支える食環境づくり  
消費生活安全課 ・ 健康推進課

# 基本方針1 健康づくりを推進するための食育

施策1

減塩対策の充実

施策2

野菜摂取量の増加に向けた取組の充実

施策3

バランスの良い食生活の実践支援

施策4

生活習慣病の発症・重症化予防のための食生活改善支援

施策5

高齢者の低栄養予防の充実

施策6

妊産婦・乳幼児の栄養指導の充実



# 減塩対策・野菜摂取・バランス食生活

## 親子食育講座

子育て世代の親子を対象に、親子で学べる食育講座を、健康関連団体と連携し、県内会場で実施されるイベント等の機会を利用して実施する。実施については、管理栄養士養成施設の学生ボランティア「ヘルスチーム菜良」とも協働する。



(前年度実施風景)

県内3会場で実施予定

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止

## 今後の方向性

子どもに直接「食」について働きかける機会となるため、県が作成した減塩ツールなどを活用しながら、コロナの流行状況等に配慮するとともに、健康関連団体等でイベントが実施される場合に、感染防止対策を講じたうえで実施する予定。

## 食育イベント

県民の減塩・野菜摂取をさらに促進するため、保健所が商業施設等と連携して食育イベントを実施し、市町村やボランティア団体等とも連携しながら、普及啓発活動を行う。



保健所ごと実施

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、スーパーマーケット等において、ポスター掲示や館内放送、レシピ配置など、工夫して実施

## 今後の方向性

今後も、感染症の拡大防止のため、多くの人を集めるイベントの形での実施は難しいと予想される。地域住民への普及啓発については、市町村が多くの関係機関と連携して実施できるよう、保健所が支援を行っていく。

# 減塩対策・野菜摂取・バランス食生活

## 減塩ツールの活用

これまでに県が作成した「減塩紙芝居」「減塩リーフレット」「適塩ソング」「高血圧の人のための減塩教室～実施マニュアル～」「減塩のぼり」等を活用し、普及啓発を実施。



R2年度 減塩ツールの活用状況(市町村数)

減塩紙芝居	減塩リーフレット	適塩ソング	減塩教室マニュアル	減塩のぼり
4	17	6	6	未把握



市町村においても、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため各種事業が中止、延期、縮小となったため、例年よりも活用数が減少

### 今後の方向性

減塩ツールについては、保健所・市町村を中心に対象に応じて活用している。今後も幅広く活用し、奈良県減塩キャラクターげんえもんの認知度も高めながら減塩対策を進める。また、ホームページにも掲載しているが、アクセス数は定着しており、他府県からの問い合わせも多い。

## まほろば元気100菜プロジェクト推進店

県民の野菜摂取を促進するため、「まほろば元気100菜プロジェクト推進店」登録制度を平成29年度に創設した。



### 今後の方向性

県民の方が自然に健康になれる食の環境整備事業は、効果的かつ重点的に実施していくため、「やさしおベジ増しプロジェクト」に一本化することとし、「まほろば元気100菜プロジェクト」は廃止する。

(※)「自然に健康になれる持続可能な食環境づくり」は健康寿命の延伸にむけて重要な施策の一つとして厚生労働省において令和3年2月5日に第1回検討会が開催された。

# 減塩対策・野菜摂取・バランス食生活

## やさしおベジ増しプロジェクト

昨年度9月に始動したプロジェクト。スーパーマーケット等と連携協働して販売される中食（そう菜やお弁当）の減塩と野菜増量に取り組み、自然に健康になれる食環境を整備する。

R3.2.28現在 5社 52店舗



コロナ禍において、店舗への働きかけが積極的にできなかったが、新規にスーパーマーケット内そう菜店が1店舗、事業所内職員食堂が1店舗の参加協力がえられた。

## やさしおベジ増し宣言

県民ひとり一人が健康的な食習慣を実践できるよう、主食・主菜・副菜のそろった食事を1日2回以上とることを基本に身体にやさしい塩加減で野菜を増した食生活を実践することを「やさしおベジ増し宣言」と名付けて県内全域に普及啓発を行う。

令和2年度は「私の（我が家の）やさしおベジ増し宣言」の募集を行った。



## 今後の方向性

食環境づくりは「人がより健康的な食生活を送れるよう、人々の食品へのアクセス（商品供給）と情報へのアクセス（情報発信の充実）の両方を整備していくこと」とされている。今後も「やさしおベジ増し」をキーワードに両方の側面で事業を実施する、

# 生活習慣病・高齢者・妊産婦・乳幼児等 対象別の取り組み

## 栄養サマリーの活用

高齢者の栄養情報を施設間、多職種間で共有するためのツールとして「栄養サマリー」「食事形態一覧表」\*を開発し、運用を進めている。

(\*奈良県栄養士会福祉事業部施設栄養士の会作成)

## 「通いの場」における取り組み



高齢者の保健事業と介護予防事業が一体化されたことにより、中和保健所において、令和元年度「通いの場」における口腔機能の向上および栄養改善にかかる健康教育等の実施状況調査を行い、市町村とともに今後の方策を検討している。特に「フレイル予防」として重要な対策としている。

## 市町村への指導・支援

妊産婦や乳幼児等に直接働きかけをおこなう市町村に対し、保健所が必要に応じて指導、支援を行っている。

## 市町村診断

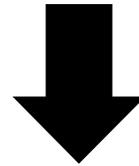
各種の健康関連データを分析し、市町村に提示している。市町村ごとの課題や対策について明確化することで、必要な施策につなげている。

### 今後の方向性

直接、住民に対して事業を行う市町村の保健事業等が適切に実施できるよう、保健所が中心となり情報提供等を行う等、支援を実施していく。

# 今年度の重点的な取組

今年度の取り組みと今後の方向性



自然に健康になれる食の環境整備  
「やさしおベジ増しプロジェクト」  
「やさしおベジ増し宣言」



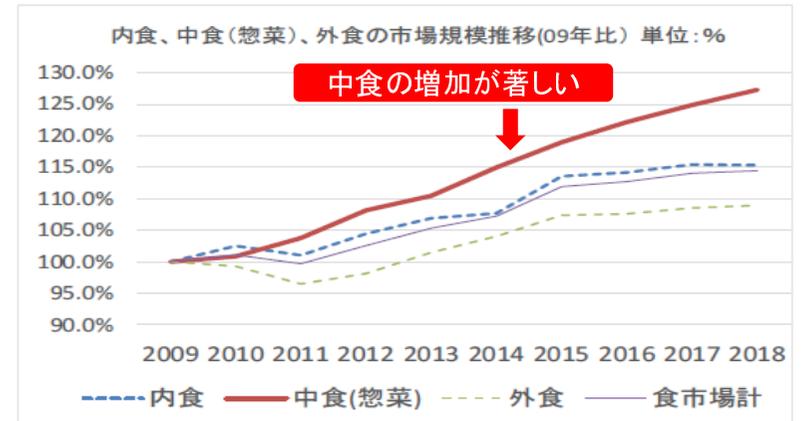
# やさしおベジ増しプロジェクト推進事業

食をめぐる現状は、共働き世帯の増加で中食（そう菜・弁当）の市場規模がこの10年で2割強伸び、今後も伸びる見込み  
週1回以上中食を利用する割合（H29食料農業白書）  
男女ともに30～50歳代：5割、60歳代：4割、70歳以上：3割

全国でも先進的な取組

中食の健康食化が重要

関心が低い層も自然に健康になれる食環境づくりを推進



令和元年9月28日 やさしおベジ増しプロジェクト スタート



販売店

R3.2. 28現在

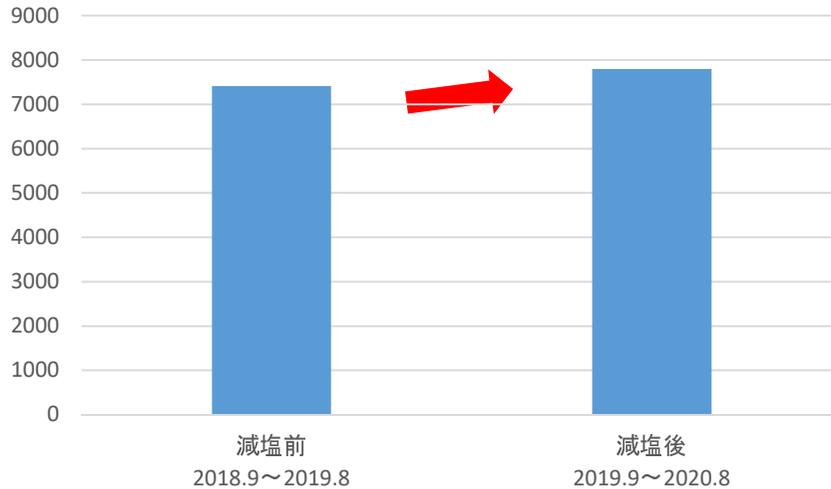


ロゴシール貼付

スーパーおくやま 全6店（現在、新メニュー検討中）  
スーパーヤオヒコ 全9店  
オークワ(系列店含む) 全35店（現在、新メニュー検討中）  
お惣菜の膳(桜井市)  
株式会社バルカー職員食堂(五條市)

## 販売実績による評価

ヤオヒコ全店における対象商品の販売個数実績（減塩開始の前後1年間分を比較）



プロジェクトへの参加から1年経過したが、売上げが減じることはなく、減塩したことのデメリットはないと評価できる。

※新型コロナウイルス感染症による新しい生活様式の影響有無については調査できていない

お互いに  
メリット

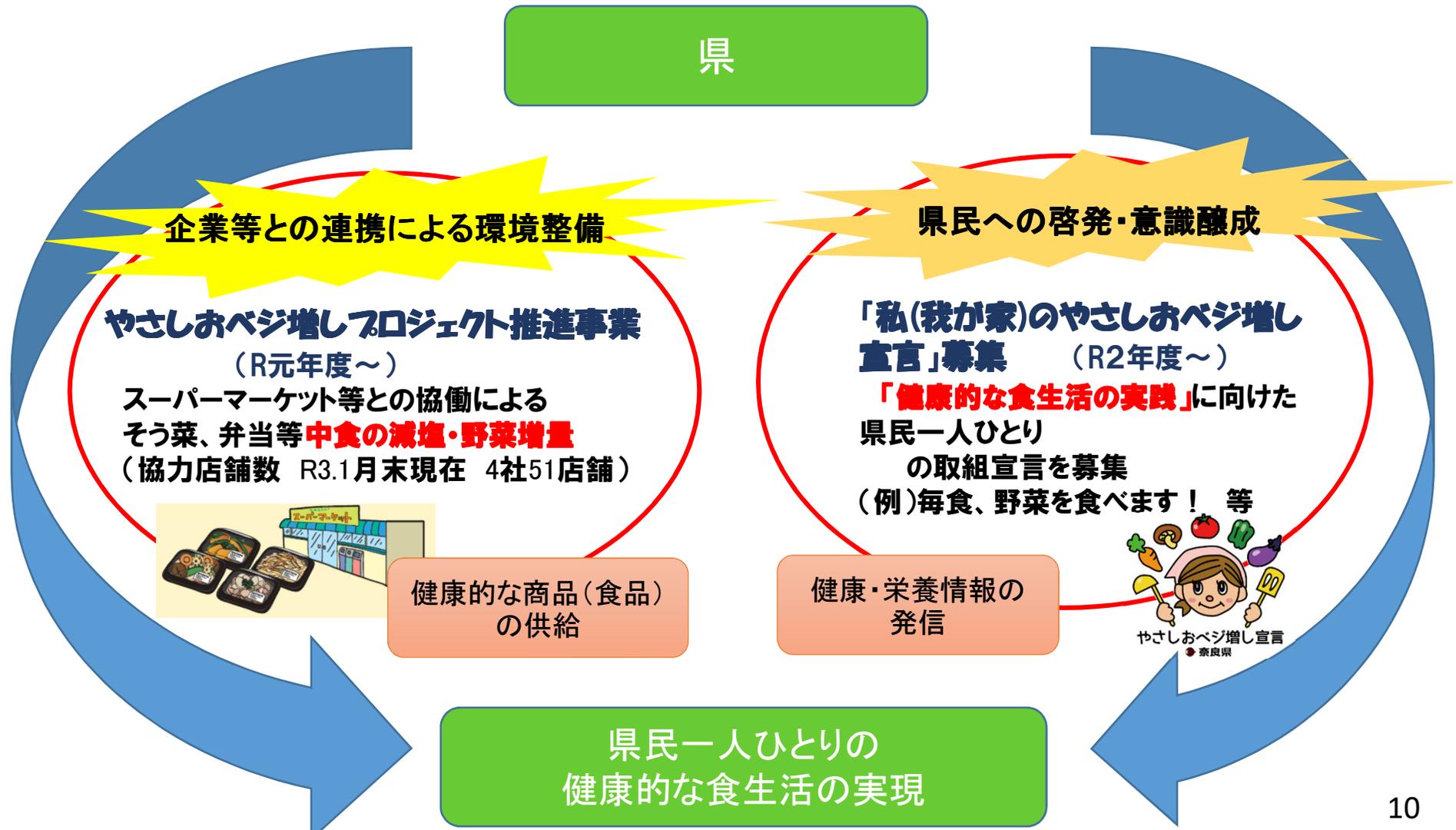
**減塩しても美味しく、ニーズも高い  
そして、売上げも落ちない。**

昨年の評価から、そう菜の売上げは好評だが、「減塩」や「ヘルシー」を謳ったお弁当はこれまでも販売数が伸びない傾向があり、今後の検討課題としていた。新型コロナウイルス感染症による新しい生活様式等により、「持ち帰り」や「宅配」等の弁当のニーズが高まる中、スーパーマーケット等に限定せず、より多くの事業者に参加協力を求めている。



# 自然に健康になれる食の環境整備

「やさしおベジ増し」をキーワードに、県民一人ひとりの健康的な食生活を実現するため、健康的な商品（食品）の供給と健康・栄養情報発信の充実の両方の側面から事業を実施します。



## 基本方針2 次世代の健全な食習慣形成のための食育

**施策1** 保育所（園）・幼稚園等における「食」に関する体験の推進

**施策2** 小・中・高等学校における食育の指導・体制の充実

**施策3** 学校給食を活かした食育の推進



# 保育所等における食育の推進

## 保育所等における「食」を楽しむ環境づくり

- 食育及び給食の具体的な推進方法等について検討する会議の実施
  - ・市町村保育所等給食担当栄養士会議
- 食育及び給食の質の充実を図るための研修会の実施
  - ・保育所等給食担当者研修会
- 食物アレルギー対応等、安全な給食を提供するための研修会、会議の実施
  - ・保育所等における事故防止のためのアレルギー対応研修会、個別の検討会議
- 健康な生活の基本である「食を営む力」の育成に向けた食育計画の作成、評価、改善の支援
  - ・保育所等における給食及び食育に関する調査、個別の支援



### 今後の方向性

「食」を楽しみ合う子どもに成長するよう、保護者や地域の関係機関と連携及び協働のもと、食に関する取組が進められるよう引き続き支援する。

# 子どもの頃からの食への関心

## 親子食育講座

健康関連団体と連携し、県内会場で実施されるイベント等の機会を利用し、親子で学べる食育講座を実施。

## 食育作文コンテスト

次世代を担う小学生や若い世代をはじめ、あらゆる世代が「食」について考え、関心を持つことを目的に実施。

今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止

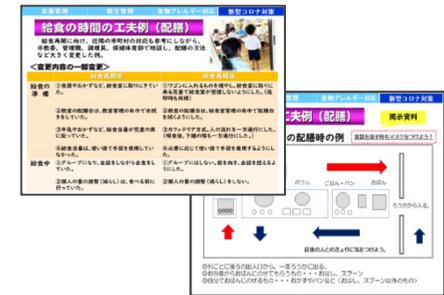
### 今後の方向性

「親子食育講座」については、子どもに直接「食」について働きかける機会となるため、コロナの流行状況等を考慮しながら、感染防止対策を講じたうえで実施する。「食育作文コンテスト」は、事業開始から7年経過し応募のある学校も限定されてきたことから、より広い対象に働きかけるため「私（我が家）のやさしおベジ増し宣言」として募集する形に変更して実施する。

# 「小・中・高等学校における食育の指導・体制の充実」「学校給食を活かした食育の推進」

## 小・中・高・特別支援学校における食育推進

- 食育推進状況調査の実施
  - ・小・中・高・特別支援学校
- 連絡会や研修会の実施
  - ・健康教育担当者連絡協議会…市町村教育委員会・県立学校
  - ・管理職研修会
  - ・栄養教諭・学校栄養職員研修会



令和2年度学校給食衛生管理・食育推進管理職研修会（紙面開催）

令和2年度栄養教諭・学校栄養職員等研修会（紙面開催）

### 今後の方向性

食育推進状況調査の結果を研修会等で周知し、食育の推進に向けて働きかけている。特に、今後は、食育推進委員会の開催率の増加や食に関する指導の全体計画に基づいた食育の推進等に取り組む。

## 学校給食を活かした食育の推進

- 学校給食における地場産物等活用や野菜摂取の促進
  - ・地場産物等実態調査
  - ・研修会の実施
  - ・学校保健会栄養教職員部会との連携
- 学校給食における地場産物活用の推進
  - ・地域連絡会
    - 《食と農の振興部豊かな食と農の振興課（公財）奈良県学校給食会、JAならけん保健体育課》



学校保健会栄養教職員部会によるグループワーキング

### 今後の方向性

地場産物等の生産・流通などの課題解決に取り組むため、関係機関との連携を強化する。また、地場産物活用促進に向けた研修会を開催する。

# 学校給食の現状と課題

## 地産地消の推進

☆「第3次食育推進基本計画」の学校給食における地場産物を使用する割合の目標値、**30%**を満たしていない。

◎生産量が少なく手に入らない

◎流通経路が無く、手に入れる手段がない

◎給食で活用しにくい価格や規格がある

## 学校給食栄養報告(週報) 文部科学省調査

### ○全国平均の推移(%)

学校給食において**地場産物**を活用している割合

H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
26.9	25.8	26.4	26.0	26.0

## 地場産物等活用状況調査 奈良県調査

### ○奈良県の推移(%) …H28年度より悉皆調査

学校給食において**地場産物及び県内製造品**を活用している割合

H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
19.0	18.3	19.7	25.3	26.5

## 伝統的食文化の継承

☆地域に伝わる郷土料理や伝統食を知らない子どもたちが増えている。

◎郷土料理や行事食を食べる習慣がない

◎行事食等を作る家庭が少なくなっている

◎食の洋風化が進み、和食を食べる機会が減った

## 今年度の取組内容(重点的な取組)

### 「つながる食育推進事業」

令和2年度文部科学省委託事業を受託

#### これまでの取組

##### 【つながる食育推進事業】

- 実践地域（広陵町）において、「朝ごはんを食べよう」「残食を減らそう」「地場産物を活用しよう」の3つの柱に沿った取組を実施
- クリアファイルと地場産物活用レシピ、朝ごはんパンフレットの作成
- 実践校（広陵町立広陵北小学校・広陵町立広陵中学校）における食に関する指導を通じた児童生徒の自己管理能力の育成
- ゲストティーチャーを活用した授業や体験学習、運動部活動に加入する生徒を対象とした栄養指導の実施
- ワーキンググループ会議の活動を生かした栄養教諭間の連携強化に向けた取組

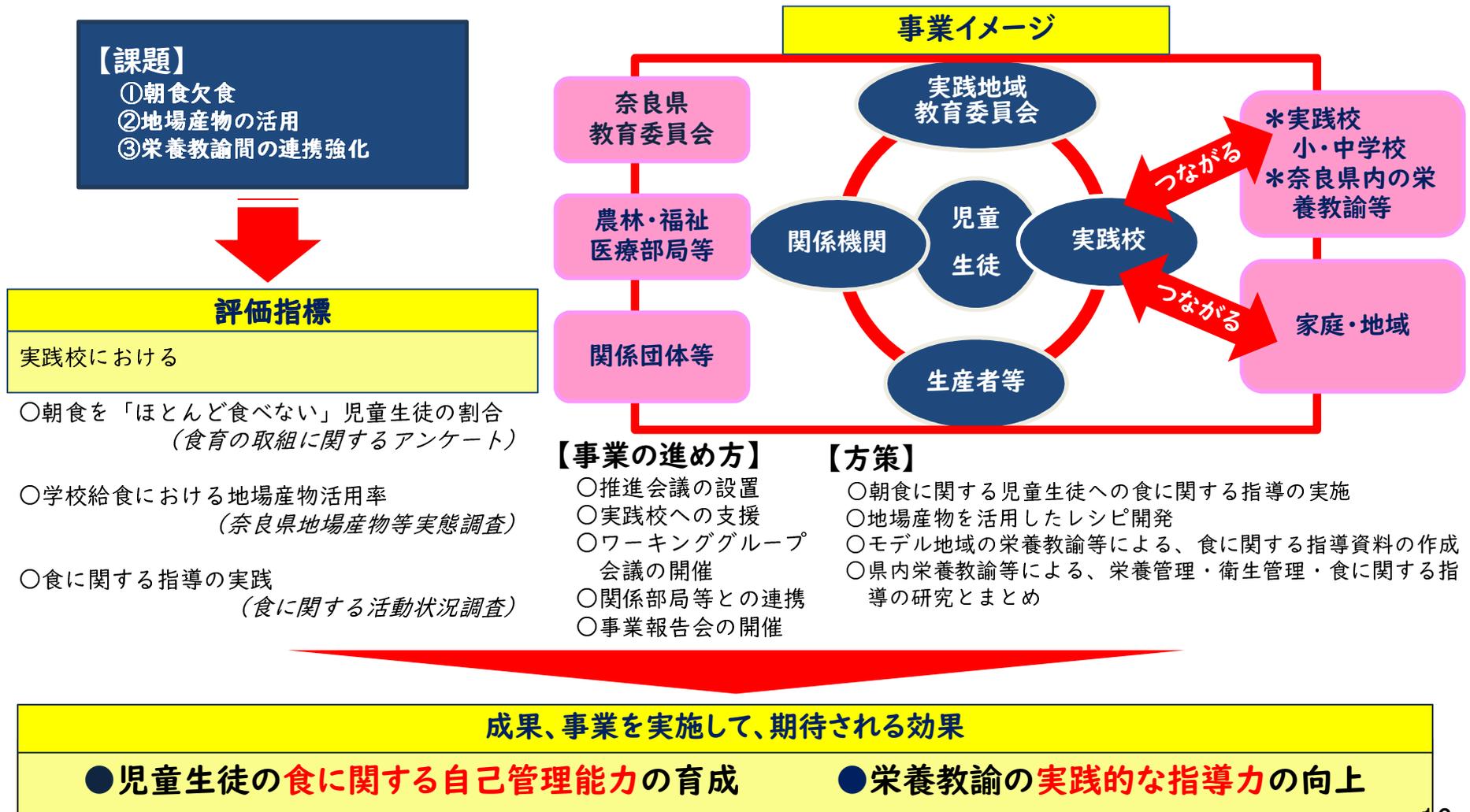
#### 課題

実践地域・実践校の取組を県内の他の地域に広めること。

# 奈良県つながる食育推進事業

**【現状】** 本県では、第3期奈良県食育推進計画の基本理念に基づき、健康長寿日本一を目指し、各学校においても様々な食育活動が展開されている。しかしながら、朝食を毎日食べていないと回答する児童生徒が全国平均より高く、依然として課題がある。子どもたちが正しい知識と望ましい生活習慣を身に付けるためには、学校・地域・家庭・関係機関が連携し、継続した取組が必要である。

**【事業概要】** 栄養教諭が中核となり、学校給食を「生きた教材」として活用しながら、学校・家庭・地域が連携した取組をとおして、児童生徒の自己管理能力の育成を目指す。また、実践事例や調査研究について情報発信することにより、県内の食育活動の充実につなげる。



## 今後、力を入れて取り組んでいきたい内容

- ・児童生徒の食に関する自己管理能力の育成
- ・家庭・地域を巻き込んだ食育の推進
- ・栄養教諭等を中核とした全校体制による食育の推進



## 基本方針3 奈良県の食の魅力向上のための食育

施策1 県産農産物のブランド力の向上

施策2 販売プロモーションの強化

施策3 地産地消の推進

施策4 食文化の継承



# 県産農産物のブランド力の向上

## 協定直売所「地の味 土の香」

平成20年度から、協働でブランド力向上と地域の活性化に取り組む直売所を公募し、県と協定を締結してきた。

「地の味 土の香」を中心に、奈良県産食材の新鮮さや美味しさをPRすることで、消費拡大につなげる。

令和2年12月末現在 協定直売所数 37店舗



### 今後の方向性

協定直売所「地の味 土の香」の魅力向上に向けた支援を行うとともに、「地の味 土の香」のネットワーク力向上のため、新たな協定の締結を進める。

## GAP(農業生産工程管理)の推進

平成30年度から各農林振興事務所及びJAならけん各営農経済センターにGAP指導員を配置し、農業者の要請に応じてGAPの取り組みを支援している。

GAPに取り組むことで農作業の中に潜む5つのリスク（食品安全・労働安全・環境保全・人権保護・農場経営管理）の低減に繋げる。



整理整頓はGAPに取り組む第一歩

### 今後の方向性

GAPの本質を農業者自らが理解し、「GAPを実践する」が県内農業者に自主的な取組となって根付くことを目指す。

# 販売プロモーションの強化

## 県産農畜水産物の魅力を発信

奈良の「食」（農畜水産物）の入門書である奈良の『食』カタログを作成、配布。大和野菜をはじめとした奈良の野菜、果物、お肉などを掲載し、一般消費者に奈良の食材の魅力を広く紹介する。県ホームページでも公開。



### 今後の方向性

新しい品種の追加や情報修正などの改訂を行い、最新の奈良の食材を広く紹介し、食の魅力の向上、消費の拡大、さらに農業の振興にもつなげる。

## 「奈良まほろば館」でのプロモーション

首都圏における奈良県農産物の認知度向上と販売促進を目的として、丸ナス、柿、大和マナ、イチゴ等を中心に、出荷ピークに合わせ、アンテナショップ「奈良まほろば館」で販売プロモーションを実施。



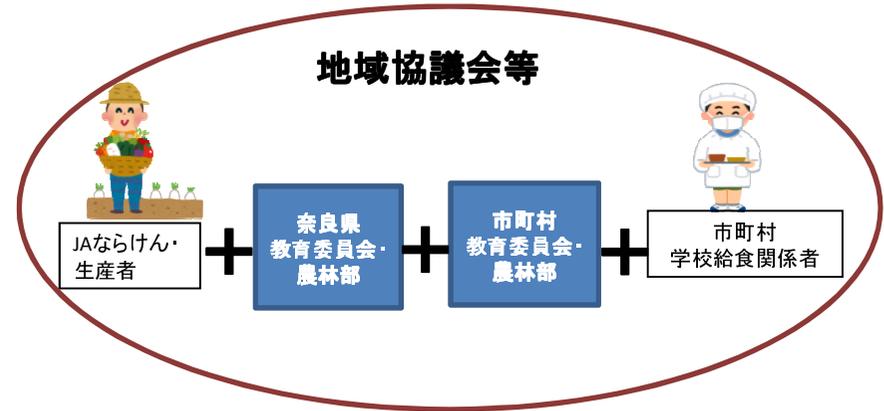
### 今後の方向性

更なる首都圏での県産農産物の販路開拓とブランド力強化を進め、食と農の魅力向上と産地の振興につなげていく。

# 地産地消の推進、食文化の継承

## 学校給食関係機関の連携強化支援

市町村に対し、学校給食における奈良県産野菜需要量調査を実施するとともに、その需要量に基づき市町村学校給食センター等と生産者等とのマッチングを実施。  
また、県、市町村及びJAならけん等による地域連絡会を設け、地域内での地場産農産物等の活用を推進するための体制づくりを行う。4地区で設立。



### 今後の方向性

地域連絡会で、県、市町村及びJAならけん等による協議の場を県内各地域に設け、学校給食における県産食材の活用推進を図る。

## 学校給食における「美味しい食事」の提供促進

栄養教諭等の学校給食関係者に対して、県産食材を使用した美味しい学校給食の提供推進に向けて働きかけを行う。  
具体的には、「奈良の食だより」による県産食材情報の発信、県産食材について知識を深める産地見学会の開催、県産食材に関する学習会の開催等に取り組む。



### 今後の方向性

県産食材情報の発信を続け、さらに県産食材を活用したメニュー開発を支援することにより、美味しい学校給食の提供推進につなげる。

# 地産地消の推進、食文化の継承

地域での食育の推進事業(H29～)

食料産業・6次産業化交付金を活用した地域における食育の推進



第3次食育推進基本計画に掲げられた目標のうち、農林水産省関係の目標※達成に向けて、地域関係者が連携して取り組む食育活動を重点的かつ効率的に推進(H29～)

支援事業(例)

- ・中部農村生活研究グループ協議会【親子料理教室】  
親子を対象に料理教室を開催
- ・NPO法人 奈良の食文化研究会【奈良食文化の体験教室】  
奈良の郷土料理等について体験教室の開催



親子料理教室

※ 農林水産省関係の目標

- ・地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている国民を増やす
- ・農林漁業体験を経験した国民を増やす
- ・栄養バランスに配慮した食生活を実践する国民を増やす
- ・食育を推進するボランティア数を増やす
- ・地域で共食したいと思う人が共食する割合を増やす
- ・食品ロス削減のために何らかの行動をしている国民を増やす

第3次食育推進基本計画及び第3期奈良県食育推進計画の目標達成に寄与

## 学校給食への取組と成果、課題

必要な施策

- 学校給食現場と生産現場のマッチング
- 県産食材に関する情報発信

これまでの取組

市町村学校給食センターと生産者等の  
マッチング(H28～)

学校給食における野菜需要量調査(H29～)

学校給食側のニーズに応じてキャベツ、  
ダイコン、タマネギの生産を振興

学校給食への食材提供の状況(kg)

	キャベツ	ダイコン	タマネギ
H28	-	0.7	-
H29	15.3	0.2	0.8
H30	28.0	4.4	3.2
R1	20.4	5.6	27.2

- ダイコン、タマネギ、キャベツの供給量は増加
- 小規模生産農家が多く、学校給食の必要量への対応が困難
- 地元の生産状況や美味しい食べ方(調理方法)などの情報が浸透していない
- 生産側の学校給食への供給体制が不十分、納入ルートの構築が困難

## 今後の取組内容

今後、力を入れて取り組んでいきたい内容

- 学校給食で新鮮な県産食材を活用した「美味しい食事」を提供する仕組みの構築
- 地域における食育活動の支援



## 基本方針4 食を支える食環境づくり

施策1

食に関するリスクコミュニケーションの推進

施策2

食品衛生監視指導計画に基づく監視指導

施策3

奈良県HACCP自主衛生管理認証制度（ならハサップ）の推進

施策4

食（食育）の担い手の育成と活動支援

施策5

県と市町村の連携による食育の推進

施策6

多様な主体による食育推進の連携強化



# 食の安全に関する意見交換

## 食品安全・安心懇話会の開催

食品の安全・安心の確保に向け、生産・加工・流通等の食品に関する各段階の事業者、学識経験者及び消費者代表と行政関係各課が、幅広く意見交換を行い、年度ごとに策定する「食品衛生監視指導計画」にその事項を盛り込むなど、県の施策に反映させている。



### 今後の方向性

食に関する様々な課題について、意見交換を実施することで情報を共有し、さらに意見を県の施策に反映することにより、生産から消費にわたる食の安全確保の推進に取り組んでいる。今後も継続して実施する予定。

## なら食に関するリスクコミュニケーション

県民との対話や意見交換を通して、食に関するリスクなどの情報を共有し意思の疎通を図るため、様々なテーマで講演会を開催し情報を発信している。



### 今後の方向性

食のリスクなどについて、県民が理解しやすいように情報を提供し、県民が正しくリスクを理解し判断することができるよう、今後も継続して実施する予定。

# 食の安全に関する監視指導・支援

## 食品衛生監視指導計画に基づく監視指導

食品衛生監視指導計画に基づき、食品関係事業者へ立ち入り、食中毒防止対策や食品表示の監視指導を行うとともに、収去(抜き取り)検査を行っている。特に、食品の流通量が著しく増大する12月及び食中毒の危険性が大きく増大する8月には、食品の一斉取締期間を設け、食の安全・安心に努めている。



### 今後の方向性

食の安全確保のため、「食品衛生監視指導計画」年度ごとに策定し、それに基づく監視指導や収去(抜き取り)検査を継続実施していく。

## 奈良県HACCP自主衛生管理認証制度(ならハサップ)の推進

H27年に創設したならハサップ認証制度により、国際基準の食品衛生管理の手法であるHACCPに沿った衛生管理(危害分析・重要管理点方式)を食品業界へ普及・啓発を行うとともに、県内の衛生水準の向上を図っている。

令和2年12月末現在 41施設認証



### 今後の方向性

食品衛生法改正により、すべての食品関係事業者にHACCPが義務づけられるため、ならハサップ認証制度の見直しを検討中。

# 食の担い手の育成等

## 食育推進リーダー研修会

栄養改善と生活習慣病予防の推進のため、地域で活動する在宅管理栄養士・栄養士等に対し、スキルアップのための研修会を開催することで人材育成を行う。

今年度、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、保健所事業が中止、縮小等になったことから集団研修は中止、個別支援のみ実施



### 今後の方向性

市町村の栄養士配置の現状から、地域で活動する栄養士の役割は大きく、今後も引き続き、資質向上を目的とした知識や技術習得のための研修会を実施する。

## 食育ボランティア研修会

食生活改善推進員をはじめ、食育ボランティアのスキルアップのために研修会を開催し、食育普及啓発活動の効果的な推進を図る。

今年度、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、保健所事業が中止、縮小等になったことから集団研修は中止、個別支援のみ実施



### 今後の方向性

地域に根ざした効果的な食育推進活動のためにはボランティアとの連携がかかせないため、今後も引き続き、資質向上を目的とした知識習得や情報共有を図っていく。

# 食の担い手の育成等

## 特定給食施設等への指導・支援

食育推進、衛生管理、危機管理、栄養管理等の向上を目的として特定給食施設の給食担当職員に対して、研修会の開催や巡回指導を実施する。

各保健所 実施



今年度、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、保健所事業が中止、縮小等になったことから集団研修は中止、個別支援および調査指導のみ実施

### 今後の方向性

対象が事業所から老人福祉施設まで広範囲なことから、課題によって対象施設別に開催したり、講義だけでなくグループワーク等の手法を用いる等効果的な研修会とする

## 大規模災害時における栄養食生活支援研修会

大規模災害時における栄養食生活支援について、市町村におけるその体制整備を適切に図ることを目的に、日本栄養士会災害支援チームJDA-DATの総括責任者である下浦佳之氏を講師にオンラインによる研修会を開催する。

開催日：令和3年3月19日

対象者：県内市町村の防災担当課および保健衛生担当課、保健所

### 今後の方向性

災害時の栄養食生活の支援体制については、市町村においては整備されていない現状が多いことから、引き続き研修会等を通じて支援を行う。

## 県と市町村の連携による食育の推進

### 保健所食育推進会議（市町村支援）

保健所と管内市町村の情報共有及び効果的な事業展開のための意見交換を実施する。  
また食育推進計画の評価等も実施する。

※保健所による実施状況は別紙のとおり



#### 今後の方向性

県と市町村が連携して効果的な取組を行うことは重要であり、今後も引き続き、保健所が核となり、市町村食育計画の進行管理や評価を行う。

## 多様な主体による食育推進の連携強化

### 奈良県食育推進会議

<奈良県食育推進ロゴマーク>

令和2年度実施状況

- ・第1回 令和2年8月28日
- ・第2回 令和3年3月（書面開催）



#### 今後の方向性

多様な立場から参画していただく委員により構成される「奈良県食育推進会議」を中心に、引き続き、関係団体等々と連携を強化していく。